

2021.1.26

本学における新型コロナウイルス感染拡大防止への取組みのお知らせとお願い

学 長

学生のご家族の皆様へ

2021年を迎えました。本学の教育活動等につきましては、日頃から多大なるお力添えをいただき、心から感謝申し上げます。

新しい年におきましても、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の防止に最善を尽くします。学生の皆さんには、感染した、あるいは少しでも感染が疑われた場合にはためらわず大学に連絡をすること、そして本学は全力をあげて学生の皆さんをサポートすることを伝えたいところです。

その上で、学生のご家族の皆様にも、本学の現在の取組み状況等を伝えさせていただき、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年末年始のコロナ感染拡大抑止策にもかかわらず感染拡大が続いていたことから、1月8日には、本学のある埼玉県を含む首都圏等に「緊急事態宣言」が再発出されました。現時点では大学における教育活動の停止は求められてはいません。

しかしながら、本学ではこれまでの「警戒レベル2」をより一層の警戒を求める「レベル3（感染の危険性があり、緊急事態宣言の対象地域に指定、自治体からの業務自粛要請がある場合などの状況に相当）」に引き上げています。その上で、教育活動等については本学における感染対策等の実績を踏まえ、基本的にこれまでの対応を継続するとともに、学生の皆さんには、後期の授業の終盤並びに各分野の国家試験等を控えて、より高い意識での防止対策を要請しています。

埼玉県内における新型コロナウイルス陽性判定者の累計は23,060人(1月23日現在)で、県民約370人につき1人、20歳代に限れば約140人に1人、という状況です。本学でも、年が明けてから1名(学生)の新型コロナウイルス陽性の報告がありました。幸い、大学内での感染にはつながってはいないものの、この状況下では、誰もが感染する可能性は否定できません。さらに本学の地理的条件を考えると一層の注意が必要なことは言うまでもありません。

教育活動について

感染レベルの引き上げを踏まえながら、基本的にはこれまでと同様、遠隔授業を原則にして、対面授業を必要とする科目については完全な感染防止対策のもと入構制限をかけながら実施しています。授業内での感染については、他大学も含めて可能性は極めて

低いところであり、感染防止対策を講じた上で実施する学内での対面授業を必要以上に恐れることはありませんが、今般の感染拡大状況を受け、対面授業への参加が不安な学生やご家族もいらっしゃるかもしれません。

その際には、科目ごと個別に対応していくという方針を基盤にしながら、代替可能な場合には遠隔授業への切り替えを科目責任者に推奨するとともに、臨地実習については、施設側と一層の協議と対策を講じていきます。

このように変革を余儀なくされる中、遠隔授業においても、学生どうしのディスカッションの実施による教育の質の確保や、学内での演習・実習においても動画教材の活用による新しい教育技法の開発・実施など全力をあげて、従来と変わらぬ、いや、従来にも増しての教育効果の向上を図っております。

また、刻々と期日が近づく国家試験に関連して、受験にあたっての健康状態の確認、すなわち受験の可否について各試験実施機関からは、例えば、37.5度以上の発熱があれば、理由の如何を問わず受験不可といった厳しい条件が示されています。そこで、これらの情報に十分留意するとともに、受験対象の4年次生はもとより、受験の可否にもつながる学内感染を防止するためにも、他学年の学生の一層の注意と協力を要請したところです。

#### 学生活動について

学生生活は教育活動のみで成り立っているわけではありません。サークル活動等を通じた交流もまた、通常の大学生活の重要な構成要素です。しかしながら、大学内に多くの人が集う状況の中で注意を怠ると、他大学で見られるような集団感染が発生するリスクを拡大します。そのような観点から、この度、サークル活動については屋内外を問わず、当面中止とさせていただきます。

大学を一步出た後も日常生活において「3密」の回避、マスクの着用、手洗い・手指消毒の励行により、なお一層の感染予防に努めるよう、学生には強く要請しています。

また、飲み会や懇親会等、参加者同士が濃厚接触する可能性の高い行事や会食への参加は、引き続き中止または延期とすることも、併せて依頼しています。

#### 今後の見通しについて

大学では、定期的に新型コロナウイルス感染対策会議を開催し、現時点での警戒レベルを確認しながら、すべての大学の活動における対応方針に沿って、全力をあげてコロナ禍に対応しております。

現時点でも概ね7割の授業については遠隔授業を原則とし、遠隔では教育目標の達成が困難な科目は、入構数の総量規制を行いながら実施をしているところです。全面的に対面授業にしない理由は、学生の健康を最優先と考えているためですが、学生の教育活動と連動する医療機関や福祉施設等、保健医療福祉の現場における感染拡大につなげて

はならないという強い決意もあるためです。

その上で、遠隔授業のためのご自宅等での通信環境の確保のご負担や、対面授業に参加することで得られる学友との交流機会の制限等を余儀なくしている部分があるのも事実です。

こうした事実も踏まえつつ、卒業生の多くがこのコロナ禍の厳しい状況において、保健医療福祉の最前線で奮闘していることを想起しながら、保健医療福祉学部の学生として、実践現場への繋がりを一層意識しながら目前の学業に臨むことで、その使命を果たしていくことを学生には伝えております。

そろそろ来年度の授業準備にも取り掛かる時期を迎えました。4月以降の新型コロナウイルスの感染状況については、なかなか見通しにくいところではあります。

本学では、的確な現状分析を踏まえた上で、多様な学修方法に対応できるよう準備を進め、可能な限り早めに学生はもとより、ご家族の皆様の方針をお伝えしていきます。

学生のご家族の皆様におかれましても、新型コロナウイルス感染拡大に向き合う本学教職員の強い意思をご理解の上、引き続き教育活動へのご理解とお力添えをいただければ幸いに存じます。